
TG Grand Vision 150

(東北学院中長期計画)

及び

第 I 期中期計画

(2016～2020 年)



学校法人 東北学院

ゆたかに学び 地域へ 世界へ

－よく生きる心が育つ東北学院－

目 次

TG Grand Vision 150 の策定にあたって	1
I. TG Grand Vision 150（東北学院中長期計画）	2
II. 第 I 期（2016～2020 年）中期計画	7
A. 学校法人東北学院	8
B. 東北学院大学	9
C. 東北学院中学校・高等学校	15
D. 東北学院榴ヶ岡高等学校	19
E. 東北学院幼稚園	21

TG Grand Vision 150 の策定にあたって

学校法人 東北学院

理事長 松本 宣郎

ここに＜東北学院中長期計画 TG Grand Vision 150＞を策定、公表する運びとなりました。学校法人東北学院（以下、「本院」という。）が、2036年の創立150年を見据え、存続・発展してゆく導きの糸としての、明確な理念と方針を示したものであります。これより後本院は、このビジョンに則ってさまざまな事業を展開してゆく所存であります。

TG Grand Vision 150 がめざしているものは、そのモットー「ゆたかに学び 地域へ 世界へ ーよく生きる心が育つ東北学院ー」に示されているとおり、東北学院の卒業生が「地の塩、世の光」として地域に世界に活躍するための「ゆたかな学び」、とりわけ「よく生きる心」を育む学び、を在学期に十全に提供し、自らのものとさせること、です。それは、東北学院の建学の精神にもとづいた人間教育・人格教育の継続・発展にほかなりません。

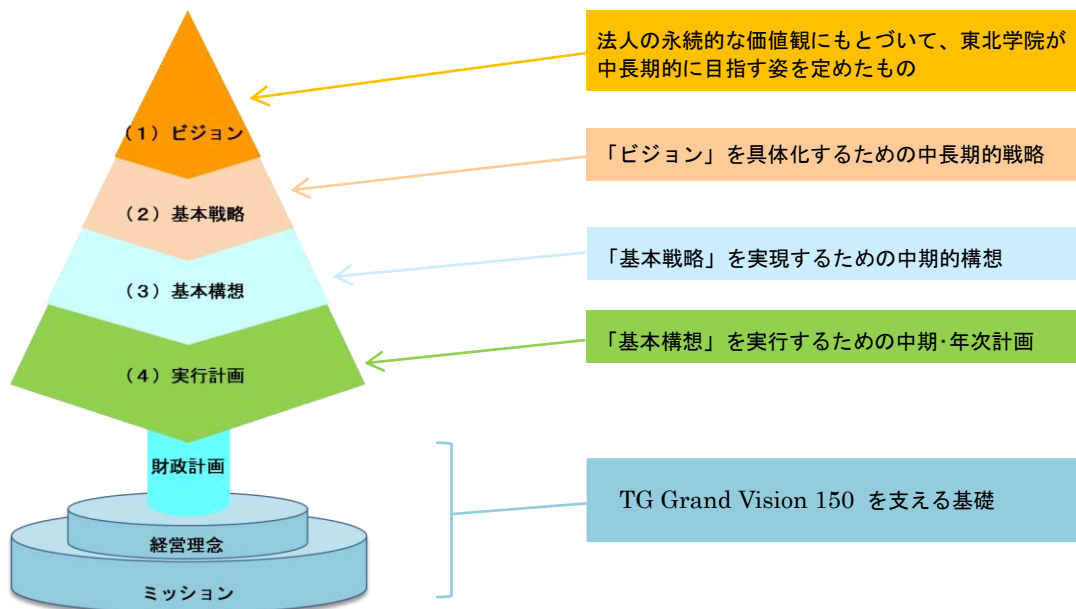
しかし、同時に、TG Grand Vision 150 は、伝統のなかから新しい東北学院を創造することをめざします。それが、基本戦略としての「新しいTGブランドの確立」です。東北学院が現在もっているブランド力に新しい要素を付加し、東北学院のブランド力をさらに強化していこうというものです。その中核となるのは「教育の質保証」と「学生・生徒第一主義」であり、地域や社会のニーズへの敏感な対応です。

あらためていうまでもなく、日本の私立学校は、少子化の時代にあって、大変厳しい状況に直面しています。TG Grand Vision 150 は、東北学院が明確なブランド色を打ち出し、地域におけるプレゼンスをさらに高めることで、この危機を乗り越え、さらには危機をチャンスに変えるための計画であります。それは、単なる願望の表明、夢想ではありません。本院は、このTG Grand Vision 150 を着実に実施していくことで、東北学院が新たな発展をとげることが可能であると確信し、そのための強い覚悟をもっています。

本院を構成するすべての方々が、TG Grand Vision 150 及び第I期中期計画の趣旨と内容を共有し、それぞれのもち場から、その目標達成に向けての推進力となってくださいますよう、切にお願いするものであります。

I. TG Grand Vision 150 (東北学院中長期計画)

1. TG Grand Vision 150 の構成



(1) ビジョン

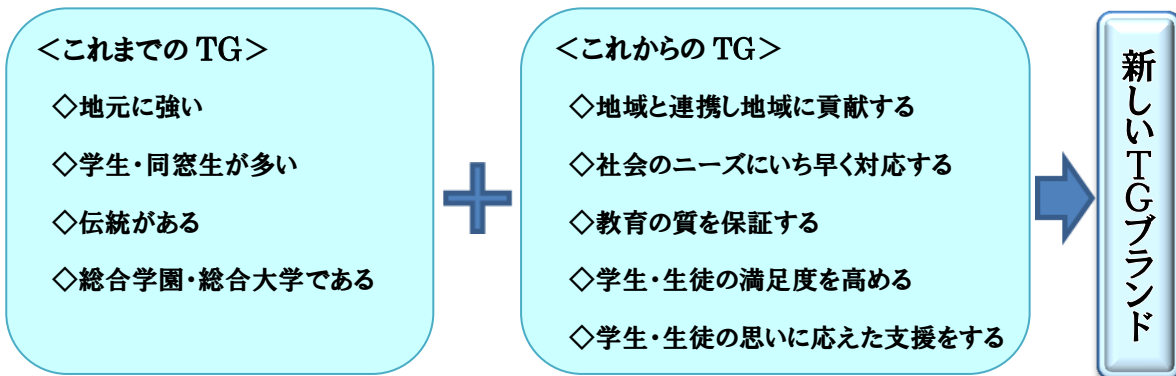
ゆたかに学び 地域へ 世界へ
—よく生きる心が育つ東北学院—

メインビジョン「ゆたかに学び 地域へ 世界へ」は、東北学院の教育がなによりもまず「学びのゆたかさ」を目指すことを示している。卒業生は、ゆたかな学びのうえに、「地の塩 世の光」として地域に世界に貢献する。

また、サブビジョンの「よく生きる心が育つ東北学院」は、「ゆたかな学び」の中核は「よく生きる心」を育むことであることを示している。

(2) 基本戦略

ビジョンを具体化するための基本戦略は<新しい TG ブランドの確立>とする。
現在の TG ブランドに5つの要素を新たに加え、新しい TG ブランドを確立する。



(3) 基本構想

- ① TG Grand Vision 150 の全体期間（20年）を5年ごとに第Ⅰ期～第Ⅳ期に分け、それぞれについて中期計画を策定する。また、＜新しいTGブランドの確立＞については、第Ⅰ期～第Ⅳ期ごとの達成目標を定める。【「3. TG Grand Vision 150 の工程」参照】
- ② 第Ⅰ期（2016～2020年）中期計画は＜新しいTGブランドの構築＞を目指し、基本構想の柱となる5つの領域と領域ごとの基本施策を下記のとおり定める。
 なお、5つの領域は全体期間（20年）を通じて継続するものとし、基本施策については各期ごとに見直しを図るものとする。
- ③ 学校法人東北学院、東北学院大学、東北学院中学校・高等学校、東北学院榴ヶ岡高等学校、及び東北学院幼稚園は、この5領域・基本施策に基づく第Ⅰ期（2016～2020年）中期計画を策定し、各部署が立案・策定する実行計画（Action Plan）の基礎となる施策方針を提示する。

第Ⅰ期（2016～2020年）中期計画における領域と基本施策	
＜領域＞	＜基本施策＞
教育・研究	・よく生きようとする心を育て、支える教育を続ける。
	・社会的ニーズにいち早く対応した教育体制・プログラムを整える。
	・教育成果に関する質保証のためのシステムを構築し、機能させる。
	・学生・生徒の満足度を高め、愛される学校となる。
	・学生・生徒の主体的・能動的な学習への支援態勢を整える。
	・質が高く、特色ある研究を推進する。
社会貢献	・開かれた学校として地域社会の多様なニーズに幅広く対応する。
	・地域と連携した取り組みを推進する。
教育環境	・快適な教育・学生生活環境を整える。
	・学生・生徒の多様なニーズに対応したきめ細かい支援を行う。
組織運営	・新たな価値を創造する、イノベティブな組織文化を育てる。
	・ガバナンス体制を整え、迅速で責任ある決定を行う。
学生・生徒募集、広報	・多様で優秀な学生・生徒を受け入れる。
	・東北学院全体としてのブランド発信力を強化する。

(4) 実行計画（Action Plan）

基本構想で示された基本施策を実現するために各校の各部署が策定する計画であり、各期全体を通じての「中期計画」と単年度ごとの「事業計画」（別冊）から構成される。

2. TG Grand Vision 150 を支える基礎

(1) ミッション

<建学の精神>

東北学院の三校祖、押川方義、W・E・ホーイ、D・B・シュネーダーは、東北学院の建学の精神を、宗教改革の「福音主義キリスト教」の信仰に基づく「個人の尊厳の重視と人格の完成」の教育にあるとした。

その教育は、聖書の示す神に対する畏敬の念とイエス・キリストにならう隣人への愛の精神を培い、文化の発展と福祉に貢献する人材の育成を目指すものである。

<教育の基本方針>

東北学院は創立以来、本法人に所属する各教育機関において一般の教育・研究活動と共に福音主義キリスト教に基づく宗教教育を一貫して行ってきた。

今後ともそれぞれの教育機関は、正規の学校行事としての礼拝と正課必修としてのキリスト教教育を不変のこととして実施していくものとする。

<スクールモットー>

「地の塩 世の光」

「LIFE LIGHT LOVE」

「LIFE, LIGHT AND LOVE FOR THE WORLD」

(2) 経営理念

<学校法人東北学院の経営理念>

学校法人東北学院は、建学の精神の堅持を根本理念とし、次の三つの基本方針により教育事業の経営にあたる。

1. 教育事業を安定的に持続させる経営
2. 社会的に適切と評価される経営
3. 社会に対して説明責任をはたす経営

(3) 財政計画

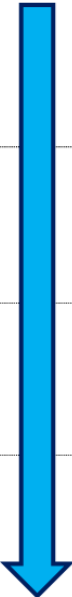
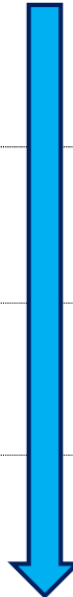



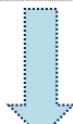
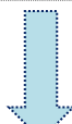
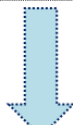
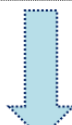
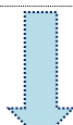
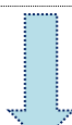
＜東北学院中・長期財政運営の基本方針＞

財政運営の基本方針を示した「東北学院中期財政フレーム」は、現在第Ⅱ期（平成26～28年度）が進行中であり、そこでは、安定的財源を確保し、借入金に依存することなく、収支の均衡を図りながら、人件費や主要な経費（教育研究経費及び管理経費）への適正な配分を目標としている。経常費補助金算定の基礎となる入学者の定員管理が厳格化され、帰属収入の大半を占める学生生徒等納付金の確保が困難となる中、収入増に向けての諸方策の実施、支出の削減等により、第Ⅱ期の最終年度である28年度までは、ほぼ目標値を達成できる見通しである。

その後、継続して第Ⅲ期（平成29～31年度）の「財政フレーム」の策定を視野に入れており、そこでもこれまでの財政運営の基本方針を踏襲する予定であるが、大学部門の総合キャンパス整備計画及び学部再編計画をはじめとして、各部門において今後想定される教育改革の具体的内容が確定していないため、現時点では具体的な収支見通しを提示することはできない。今後、計画が具体化した段階で改めて財政計画を策定することになるが、将来に向けての投資的支出が経常的支出を過度に圧迫することのないよう十分配慮した財政運営を行うという基本方針を今後も堅持する。

3. TG Grand Vision 150 の工程

ビジョン及び基本戦略は、TG Grand Vision 150 の全体期間(20年)継続するものとし、その期間を4期に区分した5年ごとの達成目標を下記のとおり定める。財政計画は、運営の基本方針を示した中期財政フレームを継続する。

年度(創立周年)	TGブランドに関する達成目標	ビジョン	基本戦略	基本構想	実行計画	ミッション 経営理念 財政計画
～2015(129)						
I期 ①2016(130) ②2017(131) ③2018(132) ④2019(133) ⑤2020(134)	新しいTGブランドの構築					
II期 ①2021(135) ②2022(136) ③2023(137) ④2024(138) ⑤2025(139)	新しいTGブランドの展開①					
III期 ①2026(140) ②2027(141) ③2028(142) ④2029(143) ⑤2030(144)	新しいTGブランドの展開②					
IV期 ①2031(145) ②2032(146) ③2033(147) ④2034(148) ⑤2035(149)	新しいTGブランドの確立					
2036 創立150周年						

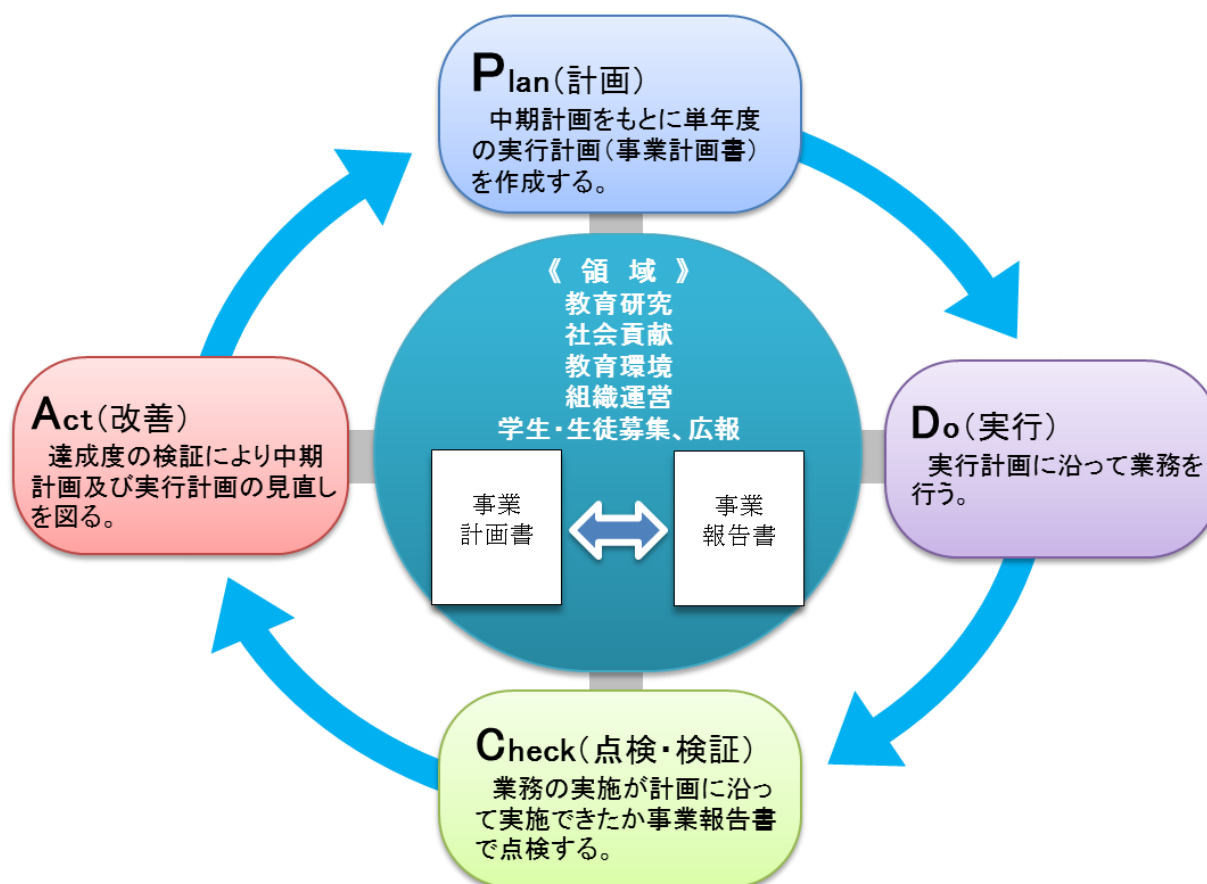
II. 第 I 期（2016～2020 年）中期計画

1. 計画の策定

学校法人東北学院、東北学院大学、東北学院中学校・高等学校、東北学院榴ヶ岡高等学校及び東北学院幼稚園は、TG Grand Vision 150 の第 I 期基本構想において示された 5 つの領域及び領域ごとの基本施策に基づいて中期計画を策定し、各部署が立案・策定する実行計画（Action Plan）の基礎となる施策方針を提示する。

2. 計画の実行及び検証

TG Grand Vision 150（東北学院中長期計画）の第 I 期（2016～2020 年）中期計画に沿った、5 つの領域及び領域ごとの基本施策に基づく計画の実行及び検証を行う。



A. 学校法人東北学院

学校法人東北学院は、TG Grand Vision 150 の基本構想で示された5領域の基本施策を踏まえ、第I期（2016～2020年）では各領域において以下の施策方針をもって中期計画とする。

《教育・研究》

- (1) 建学の精神に基づくキリスト教教育の支援と推進
- (2) 東北学院史資料センターの活動強化
- (3) 『東北学院の歴史』の発行と活用

《社会貢献》

- (1) デフォレスト館等の歴史的建造物の維持管理と紹介
- (2) 本院の果たした歴史的役割や遺産に関する情報発信の強化

《教育環境》

- (1) 東北学院総合キャンパス整備計画の策定
- (2) 大学キャンパス整備計画の推進

《組織運営》

- (1) 迅速かつ適切な意思決定のための体制強化
- (2) 東北学院企画委員会を主体とした本院の将来計画・経営計画の策定
- (3) 危機管理体制の充実
- (4) 「東北学院人事制度」の順次的導入及び定着
- (5) 大学キャンパス整備計画に伴う人事配置の検討
- (6) 戦略的政策立案型職員の育成

《学生・生徒募集、広報》

- (1) 効率的で実効性のある広報一元化に向けた体制の整備
- (2) 各種広告媒体を活用した本院全体についてのプレゼンス広報の展開
- (3) 本院ホームページの内容・構成についての不断の見直し

B. 東北学院大学

東北学院大学は、TG Grand Vision 150 第 I 期（2016～2020 年）の基本目標＜新しい TG ブランドの構築＞の達成に向けて、体系的・一体的な 3 つのポリシー「ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）」、「カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）」、「アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）」を新たに策定し実行に移すことによって、高大接続教育の充実とともに大学教育の質的転換を図ることを最重要課題とする。さらに、本学は、新しい TG ブランドの柱となる「教育の質保証」、「学生の思いに応える支援」、「学生の満足度の向上」、「地域との連携と地域への貢献」、そして「社会的ニーズへのいち早い対応」を強く意識しながら、基本構想で示された 5 領域での基本施策を踏まえ、各領域において以下の施策方針をもって中期計画とする。

《教育・研究》

（1）建学の精神に基づくキリスト教教育の継続

東北学院の営みのすべてが建学の精神を基盤にしてなされなければならないことを絶えず構成員が確認する。このことを教職員と学生との間に浸透させる。学生のために礼拝とキリスト教学の授業を継続・充実させ、教職員はそのために常に配慮を怠らないものとする。

- ① 建学の精神やスクールモットーの周知、東北学院の教育理念への理解の深化
- ② 高大連携・高大接続教育の推進による中・高・大一貫キリスト教教育プログラムの充実
- ③ 『東北学院の歴史』を利用する自校教育科目の設置と授業への組み込み

（2）教育の質的転換

最新の教育改革の成果を取り入れ、教育の質を充実させる。多様な学生に対してきめ細かな教育を行い、専門的職業人を育てる。在学中に専門的資格を取得できる機会を拡大するため、資格の種類を増やし、そのためのカリキュラムを整える。

- ① 新しい「ディプロマ・ポリシー」及び「カリキュラム・ポリシー」の策定と実行
- ② 「就職に強い大学」としてのブランド強化のための教育プログラム開発
- ③ 課題解決型学習（PBL：Problem Based Learning）等、能動的学習（アクティブ・ラーニング）の積極的導入とその質的向上
- ④ ICT 教育、e-learning の推進

- ⑤ 成績評価方法としての GPA (Grade Point Average) の採用
- ⑥ 学修成果を多面的・客観的に測定するための方法 (ポートフォリオ、ルーブリック等) の開発・採用
- ⑦ TG ベーシックの推進と質的向上、全学的な共通カリキュラムの完成と検証
- ⑧ 東北学院大学における教育の中核としての教養教育・人格教育の強化・広報
- ⑨ ホーイ記念館に設置するラーニング・commons (学修支援施設) の運用・活用、担当部署の設置
- ⑩ 学生のために懇切丁寧な授業を追究
- ⑪ 学生による授業評価のより綿密な活用、表彰実施と改善計画の義務化
- ⑫ 教員の資質向上活動 (FD : Faculty Development) の実施継続、明確な目標により実施計画を設定・実行
- ⑬ 専門教育科目の見直し・カリキュラムのスリム化

(3) グローバル化対応

グローバル化の全学的基本方針を踏まえ、長く交流のあるアメリカ合衆国の Ursinus, Franklin & Marshall 両大学との学生交換を続けるとともに、ヨーロッパ、そして中国・韓国・東南アジア諸国の大学との教育研究の提携・協力を進め、相互の人的派遣を促進する。

- ① グローバル人材養成のための教育プログラム整備
- ② 受入れ留学生増加 (受入れ留学生と協定校の増加、英語授業の増加、留学生寮整備)
- ③ 海外留学促進 (協定校の増加と目標値の設定、語学力習得支援、奨学金充実)
- ④ 国際交流に関する数値目標の策定

(4) 教員の研究強化

教員の研究活動を活性化し、外部資金を大幅に増強し、その研究成果を目に見える形で社会に発信する。学生たちに最新研究の進行過程に触れさせ、その成果に関わる知的喜びを与える。

- ① 教員の研究実績の向上
- ② 業績による教員評価制度の構築
- ③ 大学院教育改革の推進
- ④ 科学研究費等の外部資金の獲得促進
- ⑤ 研究推進支援体制の整備 (研究推進課の設置等)

《社会貢献》

『地の塩、世の光』のスクールモットーの実践を目指し、大学で学び、身につけた知識と教養を生かして世界と日本の平和、幸い、豊かさのために働く人材を育てる。

- ① 文部科学省に採択された「地（知）の拠点整備事業」（COC：Center of Community）および「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」（COC+）の事業による地域社会との連携及び貢献
- ② 講座類の充実継続
- ③ 『震災学』発行継続
- ④ 提携自治体・企業数を拡大（同窓会諸グループとの協力関係構築）
- ⑤ リエゾンアクションセンターの設置検討
- ⑥ 社会人再教育（大学院研究科、履修証明プログラム、コース制等模索）
- ⑦ ボランティアセンターの設置
- ⑧ 地域（近隣町内）住民との交流活発化～学生・留学生を交えた地域交流イベントのキャンパス内外での実施

《教育環境》

（1）土樋キャンパス整備、キャンパス統合計画

土樋キャンパスに段階的に各学部全学年を集め、一貫教育を施す体制を整える。仙台の中心地に高度な学問の府としての都市型総合大学を実現する。

- ① ホーイ記念館完成後のキャンパス構想の推進、建設計画策定（法人と合同）、2・3・4・7号館の撤去、新棟建設
- ② 90周年記念館改築の検討
- ③ TGU モールの整備
- ④ 泉キャンパスからの移転計画策定・実行
- ⑤ 工学部施設の改修
- ⑥ 土樋周辺地の獲得・利用に関する法人と協議・検討（図書館・博物館・学院史資料館の将来構想）
- ⑦ 現施設のリニューアル（食堂、トイレ、教室諸設備、学生交流エリア）
- ⑧ バリアフリー施設整備の促進
- ⑨ 図書館の将来構想
- ⑩ セキュリティ体制の強化・充実

(2) 学生支援

学生に快適な大学、ことに女子学生に心地よいキャンパスづくりを目指す。充実した授業、利用できる施設、憩えるスペースが豊富なキャンパスで、学生のキャンパス滞在時間を拡大する。

- ① 給付奨学金枠の拡大
- ② 学修意欲を引き出すための仕掛けの工夫（表彰、イベント等）
- ③ キャンパス滞在時間の拡大のための工夫
- ④ IT環境の整備
- ⑤ 課外活動の活性化・充実（ボランティア、サークル、イベント等）～スポーツ奨学金、表彰、応援制度、施設整備
- ⑥ オリエンテーションキャンプ、グループ主任による適切な指導
- ⑦ わかりやすい授業、成績評価の透明化と説明責任の明確化
- ⑧ 障がい者支援、2016年度「学生総合保健支援センター」設置
- ⑨ 学生の希望に応える就職支援の強化
- ⑩ キャリア形成支援の強化～インターンシップ（TG内インターンシップも含む）の促進、同窓会・企業人との提携強化
- ⑪ 学内外の人権侵害（ハラスメント、ブラックバイト等）からの学生の保護
- ⑫ 退学者を防ぐ対策促進、個別相談をしやすい環境作り
- ⑬ 快適なキャンパスづくり
- ⑭ 新しいタイプの学生寮の構想・設置

《組織運営》

(1) 教学組織・運営の見直し

豊かな人格と教養を培い、社会に貢献し、激動の現代において問題を発見し、解決してゆける人材を育てる総合大学を実現するために、現代に即応できる新しい学部学科を設置する。

- ① 小学校教員養成課程設置
- ② 2018年度実施に向けた新学部・学科構想策定（専門職業人養成、資格授与の種類拡大）、学生定員と教員基準値の見直し
- ③ 大学院研究科の強化、改組を含む組織の見直し
- ④ 副学長の増員
- ⑤ 特任講師制度の拡充
- ⑥ 嘱託教授制度の見直し、非常勤講師の削減

- ⑦ 各部（学務・学生等）の位置づけ・決定権限の見直し、委員会の重複部分解消、連絡・情報共有の確実性・迅速性の改善
- ⑧ “不適合”教員対策の強化
- ⑨ 教員の新規採用制度の検討、柔軟な任期制による採用の検討
- ⑩ 職場環境の維持・改善（ハラスメント防止や禁煙等）

（２）事務組織の見直し

学生サービスの向上・充実と効率的な組織づくりを目的として、組織の見直しと改編を行う。

- ① 学生サービスの向上・充実に向けた大学事務組織の見直し
- ② 職員の資質向上活動(SD：Staff Development)の強化（目標の設定、FDとの連動）
- ③ 学長室の機能充実
- ④ 情報収集・分析による政策提言(IR：Institutional Research)機能の強化とIR室の設置

《学生・生徒募集、広報》

（１）入試改革・学生確保

本学の建学の精神に共感し、この大学で学ぼうという明確な意志を持つ学生を求める。「よく生きる」意識をもち、大学の学びによって自らの能力を育て、独立した社会人として生き抜く力を獲得しようとする学生を求める。自らの将来設計をすでに描いている学生、大学４年間、様々な経験をすることによって、将来の道を見出そうと思っている学生、いずれにも対応できる教育体制を用意する。

- ① 新しい高大接続の理念、大学入試制度改革への対応
- ② 新しい「アドミッション・ポリシー」の策定と実行
- ③ WEB出願の推進
- ④ 多様な学生確保、多様な入試方法の検討
- ⑤ 厳格な定員管理
- ⑥ 戦略的志願者確保手段の追求（入試課と他部署との情報共有、協働による戦略策定）

(2) 広報戦略

本学の現況をリアルタイムにメディアを通じて発信する。大学が関わるイベント、学生の活動、教員の教育研究活動のニュースを常時プレスリリースする。魅力的な広報誌編集。現況に加えて、東北学院の未来図、近未来的イベントをこまめに発信してゆく。

- ① 学内情報の迅速かつ一元的な収集及び発信
- ② 大学に関する多角的広報の推進
- ③ メディアの革新に対応した新しい広報の開発

C. 東北学院中学校・高等学校

東北学院中学校・高等学校は TG Grand Vision 150 の第 I 期（2016～2020 年）において「21 世紀にチャレンジする学院ボーイズ」をモットーとし、建学の精神に基づく教育をさらに充実させる。また教育内容・方法の質的転換によって生徒の学力向上を図り、適切な進路指導によって大学の現役合格率を向上させる。そして、そうした教育実績によって資質と能力の高い生徒を確保することを基本目標とする。この目標達成に向けて TG Grand Vision 150 の基本構想で示された 5 領域の基本施策を踏まえ、以下の施策方針をもって第 I 期中期計画とする。

《教育・研究》

（１）建学の精神に基づく教育の充実

- ① 礼拝の意義についての教職員の共通理解の深化
- ② 礼拝の趣旨の明確化：現在の「礼拝・総合」を順次「礼拝」へ
- ③ 「3L 希望学」の実施

（２）教育内容・方法の質的転換

- ① ICT 利活用に関する研修の実施
- ② 授業モデル開発に関する研修の実施
- ③ アクティブ・ラーニングに関する研修の実施

（３）学力の向上・質保証と進路指導の充実

- ① 「学院スタンダード」の実施
- ② 「高大接続改革」に関する情報収集・対策検討
- ③ 「新学習指導要領」への対応
- ④ 「高等学校基礎学力テスト」への対応・実施、分析・検討
- ⑤ 「大学入学希望者学力評価テスト」への対応・実施、分析・検討
- ⑥ 最難関大学への進学者数増加、難関大学への現役合格率の向上

（４）英語教育の強化

世界の課題に向かって、自らの使命を育むため、高大接続改革、新学習指導要領改訂に対応しつつ、英語教育の質的転換と向上を目指す。

- ① 専任教員率の向上
- ② 中学校での外国語指導助手（ALT : Assistant Language Teacher）との複数指導（TT : Team Teaching）による授業
- ③ ALT による英語教育の放課後指導

(5) 中高大一貫教育の充実

中高一貫教育を推進・強化することで「中入生」の学力向上を図り、特に最難関大学を目指す生徒への対応を強化するとともに、東北学院大学を専願する生徒への進路指導、学力保証を強化する。

(6) 国際交流の促進

世界の課題に向かって、自らの使命を育むため、国際交流の促進を目指す。

(7) 特別な支援のための教育といじめ対策の充実

(8) 部活動の検証と充実

健全な学校教育における部活動を実現するため、現状を検証し、本校の教育の質的転換と向上に資する形で部活動の充実を図る。

《社会貢献》

(1) ボランティア活動の充実

「キリスト教に基づく全人教育」の一環として、また 21 世紀にチャレンジする学院ボーイズ育成のためにも、実践的な体験学習として充実させていく。

- ① キリスト教青年会による被災地の方々との交流
- ② 生徒指導部と生徒会有志による近隣仮設での交流
- ③ チャリティー・マラソン東京等の外部ボランティア活動への参加

(2) 学校周辺の清掃活動

日常的な学校生活での清掃活動に加え、通学路、近隣の清掃活動を通して生活習慣、社会性を育む時として行う。

(3) 近隣小中学校との交流

少子時代、小中高教育改革の動向、「中 1 ギャップ」の問題等を視野に入れるとともに、生徒募集と入試広報を強く意識しながら、近隣小中学校との交流を図る。

《教育環境》

(1) 年間行事の検証と充実、授業日数の確保

教育課程改革に伴う「総合的な学習の時間」の開始、高大接続改革に伴う高校基礎学力試験、新学習指導要領改訂等の動向を見極めつつ、本校の教育の質的転換と向上、さらには本校の目指す教育を実現するため、年間行事の検証と充実、授業日数の確保を図る。

- ① 授業時数確保のための年間行事の検証
- ② 新学習指導要領の改訂動向、高大接続改革の見極めと対応

(2) 図書室の充実

2016 年度教育課程における「総合的な学習の時間」の開始、さらには新しい学習指導要領の内容、特にアクティブ・ラーニングに対応するため、図書室を中心とした図書環境を充実させる。

(3) ICT 教育環境の充実

「21 世紀型スキル」向上を目的として、ICT 教育環境の充実を目指す。

- ① 無線コントローラー及びプロジェクターの設置
- ② 生徒貸出用タブレット及び授業支援・学習記録システムの導入

(4) 既存施設設備の維持・改修・改善

生徒教職員の安心安全な学校生活のため、移転後 10 年が経過したことと今後の施設設備活用のため更新と改修を重ね、施設設備の有効な活用と維持を図る。

(5) 警備員室の移設を含む警備体制の強化

(6) 野球場の人工芝化の検討

≪組織運営≫

(1) 少人数学級の実現

2020 年度実施が予定されている新学習指導要領で強調されているアクティブ・ラーニングによる主体的・能動的学習を推進する環境を整備し、教育の質を向上させるため少人数学級を実現する。

(2) 教科専任率の向上

専任一人教科を解消し、主要 5 教科の専任率は第 I 期内に各教科 80%以上とし、最終的には 100%に近づける。

(3) 研修制度の充実

教員の使命感と就業意欲を向上させるとともに、現場の課題を学校全体で共有し解決するための意識改革を促すため、研修の機会と内容の充実を図る。

(4) 職員及び教員人事制度に基づく組織の活性化

(5) 教員の計画的採用と資質向上

(6) 授業評価の実施

(7) 「教育研究部（仮称）」の新設

《学生・生徒募集、広報》

(1) 中学入学定員の適正化と確保

オープンキャンパス、学校説明会のデータを検証しつつ、入学試験とその後の学力水準を調査し、本校の目指す教育に適正な中学入学定員を定め、その確保を図る。

(2) 前後期試験、総合問題、入試科目等の改革

入試改革を通して、高大接続改革、新学習指導要領改訂に対応しつつ、本校の目指す教育を実現するための生徒確保を図る。

(3) 特待生制度、通学バスの検証と充実

(4) 広報と募集活動の充実

本校の置かれた入試状況を精査し、募集活動の情報収集に努め、教育の動向を把握しつつ、募集活動の充実を図る。

D. 東北学院榴ヶ岡高等学校

東北学院榴ヶ岡高等学校は、「自学自律」のスクールモットーを継続発展させ、新学習指導要領や大学入試改革を視野に入れ、生徒に主体的な学習態度の形成を促し、大学進学を経て社会で主体性をもって問題解決の出来る生徒をつくることを基本目標とし、TG Grand Vision 150 の基本構想で示された5領域の基本施策を踏まえ、次の施策方針をもって第I期の中期計画とする。

《教育・研究》

- (1) 建学の精神に基づく教育の充実
- (2) 主体的学習態度の形成に向けた教育内容・方法（アクティブ・ラーニング）の質的転換の推進
- (3) 魅力ある学校づくりのための特色ある教育（第二外国語〔独語・仏語・中国語〕）の充実
- (4) 新しい大学入試に備えた教育課程の改編
- (5) グローバル化に向けた英語力の向上
- (6) 授業公開の推進と授業力の向上
- (7) 東北学院大学との連携強化（宗教教育、英語教育、ICT教育他）

《社会貢献》

- (1) 生徒会を中心としたボランティア活動の継続
 - ① エコキャップ回収運動
 - ② 「～ノーモア注射～希望の本プロジェクト」活動の推進
 - ③ 献血活動の継続と啓発（1981年度より開始）
- (2) 各部活動を中心としたボランティア活動の継続
 - ① 老人ホーム等への演奏活動、奉仕活動の実施
 - ② 地域清掃活動の継続実施

《教育環境》

- (1) 既存施設設備の計画的改善
 - ① ICT教育環境の整備（校内無線LAN他）
 - ② 施設・設備の取替更新計画の策定
- (2) 将来的な教育環境整備計画の検討
- (3) セキュリティ体制の強化・充実

《組織運営》

(1) 教員の計画的採用

- ① キリスト者教員の採用に向けたネットワークの構築
- ② 若手教員の授業力・指導力育成に向けたベテラン教員の採用

(2) 職員及び教員人事制度に基づく組織の活性化

(3) 校務分掌の再構築

《学生・生徒募集、広報》

(1) 入学者を安定的に確保するための充実した生徒募集活動

- ① 推薦入学者数の確保と一般入試合格者のレベルアップ
- ② 志願者数増加のための中学校及び学習塾等への訪問・入試説明会等の増強

(2) 広告媒体を活用した効果的な広報の展開

- ① PC、スマホ等からのデジタル広報（学校案内、募集要項等）
- ② 学校行事等の動画広報

E. 東北学院幼稚園

東北学院幼稚園は、TG Grand Vision l50 の基本構想で示された5領域の基本施策を踏まえ、毎日の礼拝を通して、優しく豊かな心、たくましく生きる力を育むこと、また、豊かな自然に恵まれた園庭で五感をフルに働かせてたくさん遊び、子どもたちの学ぶ力、よりよく生きる心を育むことを基本目標に、次の施策方針をもって第I期中期計画とする。

《教育・研究》

(1) 建学の精神に基づく保育活動と教育の質的向上

- ① キリスト教保育に基づく独自性の維持と発展
- ② 「生きる力」を身につける「あそび」を通じた保育の発信

(2) 大学との連携で実施している「英語であそぼう」の活動の充実

《社会貢献》

(1) 地域において「子育ての拠点」となり得る活動の展開

- ① うさちゃんひろば、預かり保育の充実
- ② 園庭・ホール開放の継続実施

(2) 地域住民や高齢者等さまざまな人との触れ合いの場の設置

《教育環境》

(1) 老朽化している教育施設や保育室内備品の年次計画に基づく整備

(2) キャンパス総合整備計画に基づく長期計画の策定

(3) セキュリティ体制の強化・充実

《組織運営》

(1) 人事採用計画の策定

(2) キリスト者教員の採用

- ① キリスト者教員採用増に向けたネットワークづくり
- ② 聖書研究の学びや他園との短期人事交流による人材育成

《学生・生徒募集、広報》

(1) 園児数確保に資する募集活動の展開

(2) キリスト教保育のPR

TG Grand Vision 150

(東北学院中長期計画)

及び

第 I 期中期計画

(2016～2020 年)

編集 学校法人東北学院企画委員会

発行 学校法人東北学院

<http://www.tohoku-gakuin.jp>

〒980-8511 仙台市青葉区土樋一丁目 3 番 1 号

平成 28 (2016) 年 3 月

